

「家がいいね」 第95号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2012. 4. 9

ようやく桜が咲きました。
「年々歳々花相似たり、歳々
年々人同じからず」**劉希夷**
「ゆく河の流れは絶えずして、
しかも、もとの水にあらず」
鴨長明(方丈記) 百花繚乱
という言葉も、遅い春だから
こそ実感がありますね。



数字は、別物と置き換え可能という「ことよ」！
個人情報を建前に「○○番さまー！」
と呼ぶのが今の病院です。でも私は、
生まれてきた証は、名前に在ると思
います。機能を追い、すべてを数字
に替えて欲しくないと思っています。



「カーネーション」の花言葉！

この朝トラは、良質の映画のよ
うで、想像力を膨らまされながら
見ました。他のTV番組は説明過
剰、それ以上の解釈を許さない中
で光りました。このように脚本が良いと、俳優さ
んたちが生き生きと演技に打ち込み、その人以上
になるものだなと思います。タイトルは、「**あらゆる
試練に耐えた誠実**」という花言葉にひかれて思
いついたと、脚本家の渡辺あやさんは言われます。
主役の尾野真千子さんは、奈良県吉野の中3の
放課後、河瀬直美監督に見いだされ
映画に出ました。その後の15年の
経過には、普通の高校生として学び、
将来への希望もつなぐという試練も
課されていました。**（萌の朱雀 写真引用）**



私はこのドラマの試練は最後にあつたと思えま
す。引き継ぐ夏木マリさんが「アウエーな感じ」
とコメントされましたが、「晩年を生きる」という
こと自体が「アウエー（敵地）を生きる」という
ことです。守ってくれた人たちが亡くし、若さを
失くし、懐かしい商店街も、新しい時代の人たち
のための街並みに、様変わりしてしまいました。



私も72歳の糸子に代わ
った時点で、違和感あるい
は喪失感を感じましたが、
それは当然だったのですね。
「うちは、ここで宝物を抱
えて生きていくんや」と、
言い、老いが現実となった
糸子の全く新しい挑戦が、始まったと思います。

脚本の渡辺さんもコメントされています。
この脚本を書き始めた時、ここに学ぶべきものがたく
さんあるだろうと予感していました。私の仕事は、老い
の苦しみに向き合うこと。そして、そこから立ち上がった
糸子が得ている幸福感、人生に対する構えや哲学をい
かに自身が学び、見る人に伝えていくかが、この物語
の一番大事なことだと感じました。

私が一番得たものは、「人は、自分だけの何か」を大
事にはいけない」ということでしょうか。自分だけ
の何かを大事にすればするほど、人は孤独になっていく
し、不幸になってしまつ。例えばとりでも、誰かと共有
できるようにすること。さらにたくさんの人と共有でき
れば、もっと人生は楽になるかもしれないと思つんです。
小篠綾子さんという一生を豊かに生きた女性をモデ
ルにした糸子の人生は、「人に与えることで、多くの幸
せを形づくった」と断言できると思います。それが人間
の真理かどうかは分からない
けれど、私はすごく共感でき
る。「カーネーション」という
物語も、ちゃんとここにたど
り着けたと思つています。

（NHKホームページ
から引用、一部編集）



5月の連休の休診のお願い

4月28日（土）まで通常開院
29日（日）～5月6日（日）休診
5月7日（月）より通常開院
この間も在宅患者さんには24時間対応します



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>